

2020年10月26日

ユニバーシアード大会記念 第27回九州大学野球選手権における
新型コロナウイルス対応ガイドライン

全九州大学野球協会

(基本方針)

第27回ユニバーシアード大会記念九州大学野球選手権(以下、当大会という。)の大会主催者、大会関係者および出場チーム関係者は、大会期間中における試合、移動等にあたって、新型コロナウイルス感染防止対策の基本となるソーシャルディスタンスの確保、密接・密集を避けること、マスクを着用することの3点を常に意識しながら行動することとする。

(観戦について)

原則、無観客試合とする。

ただし、当大会出場チームの部員、家族(父母、祖父母、兄弟まで)、スカウト(社会人野球チームやNPB、独立リーグ等)は入場可能とするが、状況によっては入場を断りする可能性がある。

(球場に入る際の感染予防策)

(1) チーム関係者(以後、当大会に出場する各チームを指す。)

①「健康チェックシート(チーム用)」を試合当日に大会本部へ提出する。

ただし、起床直後および出発前に検温を行い、体温が37.5度以上の者は球場への入場を禁止する。また、どうチェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、大会主催者がチーム責任者と協議して判断する。

②関係者受付(入口)でアルコール消毒液による手指消毒を行う。

③入場後、グラウンド以外は常にマスク着用とする。

(2) 大会関係者(以後、全九州大学野球協会、各連盟事務局および学生幹事、審判、来賓、派遣部員等を指す。)

①関係者受付(入口)で検温を行い、体温が37.5度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「健康チェックシート表(大会関係者)」に必要事項を記載し、同チェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、大会主催者が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。

②関係者受付(入口)で氏名、連絡先を記入し、アルコール消毒による手指消毒を行う。

③入場後は常にマスク着用とする。

(3) 報道関係者

- ①原則、事前に当協会へ連絡があった報道機関（1社2名まで）のみ、大会当日の取材を許可する。（ご希望される報道機関はメールにてお問合せください。）
- ②関係者受付（入口）で検温を行い、体温が37.5度以上あった場合は球場への入場を禁止する。また、「健康チェックシート（報道関係者）」に必要事項を記載し、同チェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、大会主催者が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。
- ③関係者受付（入口）で氏名と連絡先を記入（もしくは名刺の提出）し、アルコール消毒による手指消毒を行う。
- ④入場後は常にマスク着用とする。

(4) 観客（出場チームの部員、選手の家族、スカウトなど）

- ①球場入口で検温を行い、体温が37.5度以上あった場合は入場をお断りする。入場料を徴収していた場合は返金する。
- ②球場入り口で「健康チェックシート（来場者用）（別紙4）」に氏名・連絡先を記入し、アルコール消毒による手指消毒を行う。
- ③入場後は常にマスク着用とする。

(チーム関係者の感染予防策)

部長、監督、コーチは新型コロナウイルス感染防止対策を常に念頭に置きながら選手を指導することとする。

(1) 試合前

- ①選手控室では、チーム全体でのミーティングや喫食等、長時間の滞在を避ける。
- ②アルコール消毒液をベンチに設置し、適宜、消毒もしくは手洗い（流水のみでも可）を行う。
- ③ウォーミングアップ時のマスク着用は必須としない。

(2) 試合中

後記（試合について）に記載する。

(3) 試合終了後のベンチ入れ替えについて

- ①試合の合間に、大会関係者によってベンチ内の消毒を行う。また前試合チームと次試合チームとの接触をなるべく避けるため、次試合チームはグラウンド入り後、ベンチ

前に待機とし、前試合チームが退出後にベンチへ入ることとする。

(大会関係者の感染予防策)

- (1) 本部席、審判控室、記録室、放送室等は、使用する者が30分に1回を目途に、定期的に喚起する。
- (2) 各諸室、関係者用トイレには、アルコール消毒液を設置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (3) 球場内は、常にマスクを着用する。
- (4) 座席の間隔は一定の距離(2mが難しいときは座席1つ開けるなど)を保つ。

(報道関係者の感染予防策)

- (1) 記者席では、使用する者が30分に一回を目途に、定期的に喚起する。また座席の間隔は一定の距離(2mが難しいときは座席1つ開けるなど)を保つ。
- (2) 設置されているアルコール消毒液を使うなど、消毒や手洗いを徹底する。
- (3) 球場内は、常にマスク着用とする。
- (4) チーム関係者へ取材を行う場合は、取材対象者を事前に全九州大学野球協会(以下、当協会という。)に通知し、その指示に従う。
- (5) 取材するときは、2m以上の距離を保つ。なお取材エリアは当協会の指示に従うこととし、ぶらさがり取材や囲み取材は禁止する。

(観客の感染予防策)

- (1) 観客の座席は極力2m以上(最低イス1個)離すこととする。
- (2) 観客席で大声を出すこと、太鼓等の鳴り物を使うこと、応援歌の合唱、およびエールを送ること等を禁止する。
- (3) 球場内のトイレには手洗い用せっけんもしくはアルコール消毒液を設置し、手洗いの励行を場内アナウンス等で喚起する。

(試合について)

試合開始および試合終了時ともに挨拶は従来通り行うが、終了後の相手チームとの握手等は行わない。

(1) 審判員

- ①球審はマスクの着用もしくは球審用マスクシールドを装着する。
- ②塁審も極力マスクを着用する。
- ③熱中症の予防のため、3回および6回終了時には、審判の給水時間を設ける。

(2) チーム関係者

- ①ベンチ内では選手同士の間隔確保（最低イス1個分）に努める。当協会がベンチ内での十分な感覚の確保が困難と判断した場合には、ベンチ外の場所を指示し、待機させることとする。
- ②出場している選手以外の控え選手および監督・コーチ等のスタッフ（ベースコーチも含む）は、マスク着用とする。
- ③素手でのハイタッチ、握手、メガホンの使用等を禁止する。
- ④試合前やイニング間の円陣は一定の間隔を保てるよう、広めに組む。
- ⑤投手交代等でマウンドに集まる場合、できるだけ選手、監督（コーチを含む）との間隔をとり、可能な限り接触を避ける。
- ⑥給水の回し飲みは禁止する。
- ⑦取材を受ける場合は、当協会の指示に従い、2m以上の距離を保つ。

(3) 大会関係者

- ①使用する諸室、観客席のイス、手すりなどの消毒は随時行う。
- ②閉会式および表彰式は規模を縮小し、密接、密集を避け、短時間で行う。

(感染者等が発生した時の対応)

(1) 大会前日までの対応

①チーム関係者

- ・チーム内の体調不良者が医療機関から新型コロナウイルスに感染の疑いがあると診断された場合、チーム代表者は当協会事務局に報告する。
- ・チーム代表者は検査結果を当協会事務局に報告し、陽性者は医療機関の指示に従い、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）には医療機関もしくは自治体の保健所等の指示に従う。
- ・チーム代表者は大会に出場可能な選手数を当協会事務局に報告する。
- ・当協会事務局は当該チームの大会出場の可否について事務局内で協議する。

②大会関係者

感染または感染の疑いがある場合、すみやかに当協会事務局に報告し、大会運営への参加を自粛する。また、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）も大会運営への参加を自粛する。

(2) 大会期間中の対応

①チーム関係者

チーム代表者はすみやかに当協会事務局に報告し、感染者は医療機関の指示に従い、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）も自治体の保健所等の指示に

従う。

②大会関係者

感染または感染の疑いがある場合、すみやかに当協会事務局に報告し、大会運営への参加を自粛する。また、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）も大会運営への参加を自粛する。

③観客

感染が判明した場合、保健所の指示、指導に従うものとする。

④大会日程の変更等について

大会の中止を含む日程の変更等については、当協会が協議のうえ、決定する。

⑤当該チームの試合出場の可否については、当協会が協議のうえ、決定する。

(3) 大会終了後の対応について

チーム関係者、大会関係者および観客に感染したことが判明した場合、保健所の指示、指導に従うものとする。

※濃厚接触者：患者（確定例）の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- ・患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内を含む）があった者
- ・適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護もしくは介護していた者。
- ・患者（確定例）の気道分泌液や体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者。
- ・その他、手で触れることのできる距離（目安として1m）で、必要な感染予防策なしで患者（確定例）と15分以上接触があった者（周辺の環境や接触の状況等、個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する。）

(その他)

なお、本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合、当協会事務局内で協議のうえ、対応する。

以上

(お問い合わせ先)

全九州大学野球協会事務局

Mail : allkyushu.ubb@gmail.com